

**事業所名** グループホーム ワカヤ・クラブ  
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成20年 4月17日

**評価機関名** ㈱東京リーガルマインド  
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

**評価調査員**  
A:現職 社会福祉法人生活指導員  
資格・経験 身体障害者職業生活指導員、社会福祉主事、ホームヘルパー2級、介護支援専門員、難病患者等ホームヘルパー  
B:現職 高等学校非常勤講師  
資格・経験 看護師、社会福祉士、福祉住環境コーディネーター

**自主評価結果を見る** (事業者の自主評価結果にリンクします)

**評価項目の内容を見る** (評価項目にリンクします)

**事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)**  
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

### 外部評価の結果

**講評**

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

- ・岡山市の郊外、閑静な住宅地の中にホームはある。白を基調とした2階建ての建物で、広い敷地と庭を活かし、保養所のようなリラックス感を味わえる。自然にも恵まれた環境の中、入居者は穏やかにホーム生活を送っている。
- ・近隣の医療機関との強固な提携があり、日々の健康相談はもとより、緊急時には24時間対応してもらえる。作業療法士・看護師が常駐しており、医療面での専門的な対応もあり、入居者・家族共に安心が得られる。
- ・母体法人の指導により、ホームの運営や職員の労務管理等が確立しており、職員が働きやすい環境を作り出している。そのことは、入居者へのケアサービスにも反映されており、職員の介護資質の向上にも繋がっている。入居者の表情も明るく、穏やかだった。
- ・職員は、ミュージックセラピーについての知識も深く、入居者のバイオリズムに合わせ、朝と夜のBGMを変化させている。睡眠についても詳しく学び、心身共に安定したホーム生活を目指している。
- ・ワカヤ・クラブのホームページ「小春日ネット」を立ち上げ、グループホームの情報公開を始め、認知症・高齢者介護についての情報提供を行っている。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

改善点として特に指摘すべき事項は無い。

- ・運営推進会議等を通じて地域とのより強い連携を図り、認知症高齢者の地域での社会生活の活性化を促し、高齢化が進む市街地における福祉の中核となることを期待する。

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	<b>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者及び家族の意向を充分認識し、安心と快適な日常生活を応援している。個人の主体性を大切に、今までの生活と変わらぬ暮らしが営めるよう支援している。</li> <li>・職員は、「明るく笑顔、明るく挨拶、清潔な身なり」で入居者・家族に接するように心がけ、入居者が快適に穏かに過ごせるホーム生活の実現を目指している。</li> <li>・管理者を始め、職員は入居者の個性と人格を尊重し、守秘義務を遵守して入居者・家族のプライバシーを損なうことがないよう徹底を図っている。</li> <li>・入居者一人ひとりの個性に合わせ、その人らしく暮らせることを第一に考え、快適な空間・快適な時間の提供に努めている。</li> </ul>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	<b>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は入居者個々の特性を把握しており、編み物や書道等趣味を楽しむ人や、シーズン毎に花を入れ替えて季節感を肌で感じて楽しむ人もあり、集団生活の中にも個人の意思やペースを尊重し、入居者に精神的な安定をもたらす、落ち着いたホーム生活が送れるよう取り組んでいる。</li> <li>・四季折々の行事・誕生日会等、節目、節目の適宜な変化や刺激で心理的安定をもたらす、入居者が安心・安全に暮らせるように努めている。</li> <li>・職員はミュージックセラピーを研修しており、朝と夜のBGMに変化をつけ、認知症の緩和と入居者の精神的安定を積極的に図り、職員と入居者が共に幸せを感じられる場作りに努力している。</li> </ul>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の変容に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	<b>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者の今までの生活歴・経験・能力を把握し、入居者の希望や自己決定を尊重した役割作りを行い、生活に生き甲斐や張り合いを感じてもらえるよう取り組んでいる。</li> <li>・人生の先輩として入居者から学び、支えあう関係を構築し、一人ひとりのその人らしい尊厳のある暮らしを支えている。</li> <li>・馴染みの関係になっても、入居者のプライベートな場所での礼儀をわきまえ、誇りやプライバシーを損ねることがないように言葉掛けや対応に留意している。入居者個人に関する事は、他の入居者の前で話さない等個人のプライバシーの保護を徹底している。</li> </ul>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	<b>サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの行動をしっかり観察することにより、一律の介護ではなく、入居者個々の状況や状態に合わせたサービスの提供を行い、一人ひとりと向き合った介護の提供に努めている。</li> <li>・職員が働きやすい環境が整っていることは、入居者への手厚い介護にも繋がっており、職員の就労環境を整備し、ストレスに対するケアにも気を配っている。</li> <li>・事故報告書やヒヤリ・ハット等、些細なことも漏らさず記録に残している。発生原因の検討や対応の内容、経過も記録し、その日のうちに全職員が内容を共有できるようにして再発防止に努め、次へと繋げている。</li> </ul>		